１月　②『小麦粉』

≪テーマの設定理由≫
・小麦粉の感触や匂い、形が変化していく様子が子どもたちの視覚、触覚、嗅覚といった五感の刺激に繋がると感じた為。
・小麦粉粘土は柔らかく、自由に形を変えられるので、子どもたちの創造力が豊かになるのではないかと感じた為。

【準備したもの】
・小麦粉・水・オケ・タライ・絵の具・ブルーシート

活動時間→60 分　活動人数→15 人

【活動内容】

・たらいに小麦粉を入れて、粉の匂い、感触を感じる。
・たらいの中に水を少しずつ入れていき、小麦粉が変化していく感触、匂いを感じる。
・水を吸収し、生地になった小麦粉粘土を手や足、包丁やヘラなどの道具を使って、自分がイメージしている形にする。
・小麦粉粘土を絵の具で色を付けていき、視覚を豊かにし、さらに自分がイメージした物をよりリアルに作り上げていく。
・作り上げた物を保育士や子どもたちと共有し、表現力を養う。

【振り返り】

・小麦粉のふわふわとした感触を楽しみながら、指先でつんつんと触ったり、手のひらでつかむ姿が見られた。手のひらから、さらさらと粉が落ちていく様子をじっと見つめたり、「気持ちいい」と笑顔になる子がいたりと、粉ならではの手わざりを味わっていた。
・たらいの中に少しずつ水を入れていくと、さらさらだった粉がしっとりと変わり、最後はべたべたになった。粉の状態の時は笑顔が多かった子どもたちだったが、手にくっつくほどのべたべた状態になると「気持ち悪い」「手を洗いたい」と不快感を見せていた。形になってくると、再び興味を示し始めた。保育士が「触ってみる？」と尋ねると、不安そうな表情を浮かべながらも指先で確かめるようにつんつんと触る姿が見られた。
・出来上がった小麦粉粘土を使って、手のひらでぎゅっと押したり、足で踏んで薄く伸ばそうとしたりと自分のイメージした形にしようと夢中になっていた。また色付けもしていくことで、さらに見立て活動が盛り上がった。

子どもの様子

【①小麦粉に触れる】
・子どもの前でタライの中に小麦粉を入れていくと、すぐに興味を示し、指先でそっと触れたり、手の平で握ったりと、さらさらとした感触を楽しんでいた。手についた粉を見て、「白くなった！」「きもちいい」などと、笑顔で楽しんでおり、何度も触れて心地良さを感じていた。

【②小麦粉に水を入れる】
・小麦粉に水を入れていくと、粉の様子が変わってきたことに気付いた子どもたち。手にくっついたベタベタとした感触に面白がる子もいれば、不快に感じる子がいたりと様々な姿が見られた。中には「もうやめたい」と言い、触れ無くなる子もいた。粉と水が混ざり合っていく瞬間を個々のペースで見守りながら活動を進めていった。

【③小麦粘土で遊ぶ】
・次第に生地がまとまり始めると興味が更に高まり、一旦、興味が低下していた子も再度興味を示し始めた。固まって来た小麦粉粘土を手で握ったり、伸ばしたり足で踏んでみたりと小麦粉粘土の感触を楽しんでいた。丸めたり、細長くしていく中で「おだんご」「うどん」などと見立て、形を作ることを楽しんでいた。

【④小麦粉粘土に色を付ける】
・小麦粉粘土に色を付けたい子には、子どもの選んだ色で絵の具を混ぜていった。最初は色が付いた部分を不思議そうに見つめ、段々と色がついていくと「青になってきた！今混ざり合っている」などと目を輝かせながら変化を楽しんでいた。色が付いた粘土を「トマト！」「魚！」などと見立て遊びもさらに広がっていた。